「全国コミュニティ・スクール研究大会in下関」
パネルディスカッション（8月5日市民会館）

市民と市長を結ぶコラム

元気UPアップ通信

下関市長の部屋 検索 http://www.city.shimonoseki.lg.jp/

地域とともにある学校づくり
～コミュニティ・スクール～

こんにちは。市長の中尾友昭です。来年度から、地域内分権の柱の一つである「住民自治によるまちづくり」の取り組みが本格的に始まります。おおむね中学校区ごとに地域の皆さんが設立する「まちづくり協議会」と市が対等な立場で協力しながら、人とのつながりを大切にし、地域の力が発揮できるまちづくりを目指すものです。皆さんの積極的な参加を期待します。

教育においても地域ぐるみで取り組む「コミュニティ・スクール」を取り入れる学校が全国的に増えています。これは、学校を拠点として、学校運営に地域の声を取り入れながら、みんながつながり、みんなで子どもを育てる環境を整える仕組みです。コミュニティ・スクールは、全国で広まりを見せ、指定されている学校は今年4月現在で約1919校を数えます。

下関市でも、全ての小・中学校が指定を受けて、地域や学校の実情に合わせた特色ある取り組みが行われています。各学校では、地域住民や保護者、教職員が、「どのような子どもに育って欲しいのか」「地域住民は学校に対してどのような支援ができるのか」などを話し合い、「地域とともにある学校づくり」の実践が進められています。

8月5日には、「2014年全国コミュニティ・スクール研究大会in下関」が、下関市民会館で開催されました。全国各地から約1300人の方々にお越しいただきました。私も、パネルディスカッションのパネリストとして登壇しました。「コミュニティ・スクールの今！ひろがる未来!!」をテーマに、他のパネリストと意見を交わし、コミュニティ・スクールに期待する私の思いを語りました。

コミュニティ・スクールは、「地域とともにある学校づくり」を進めるとともに、地域住民の主体的な取り組みを生み出す仕組みでもあります。地域住民が、学校のさまざまな教育活動に関わっていくことで、学校教育がより充実すると同時に、地域住民もやりがいや生きがいを見いだし、地域の活性化、さらにはまちづくりにつながっていくと考えています。私は、コミュニティ・スクールを「地域内分権のトップランナー」として大いに期待をしており、今後、それぞれの地域でさらに充実し、活性化していくことを楽しみにしています。

今回は菊川町在住の内藤千尋さんの作品。中尾市長の似顔絵を募集しています。作品と、住所、氏名（ペンネーム可）、電話番号を、広報広聴課（〒750-8521市内南部町1番1号）へお寄せください。

しものせきナビ vol.48

下関の登録有形文化財

中野家住宅
「主屋・納屋・土蔵・塀・石垣」
下関市大字内日上

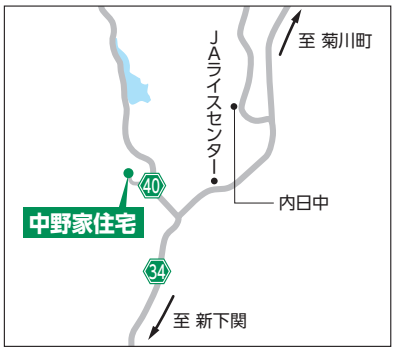
自然豊かな内日地区は、遅くとも鎌倉時代後期には耕地として開発されており、現在も盆地特有の地形と豊かな水源を生かした稲作が盛んな地域です。

狩音山の懐に抱かれた中野家は、江戸時代に建てられた主屋と納屋の他、土蔵、土塀、石垣などが残り、これらが一体となって農家の佇まいを形成しています。

江戸中期の建築とされる納屋は、「船枻造」という、本来は庄屋など限られた階層の住まいにしか許されなかった軒のつくりに特徴があります。軒裏の桁や小天井を腕木が支える造りで、和船の櫓を漕ぐ場所に似ていることから、このように呼ばれています。

庭に面して8畳の座敷を持つ主屋は、奥行の浅い床や室内の様子から、江戸後期の建築とされます。改造が少なく、県内の村役人層の住宅に18世紀末ごろ定着したとされる「整形六間取り」の平面を踏襲しています。

現在は鉄板で覆われている主屋と納屋の屋根の下には篠（茅）が残されており、以前の様子をうかがうことができます。



※登録有形文化財…地域のシンボルとなっている建物など、特にその保存と活用が必要とされる身近な歴史的建造物のうち、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録した建築物や土木構造物などのこと